

“評価”に悩む先生方へ

キャリア教育を推進・充実させていく上で、評価はとても重要です。

ただ一口に評価といっても、評価には二つの側面があります。それは、子供たちの現状や学びの成果を把握する「見取り」と、見取りの結果や全校的な教育活動の実施状況を把握する「点検」です。「見取り」「点検」のいずれも重要であると感じている先生方は多いと思われそうですが、同時に、どのように進めれば良いか悩む先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「授業で実践してみたけど、子供たちの変容をどう見取るといいの？」
「全校的に各学期、一年間を通して取り組んだが、活動をどのように点検すればいいんだ？」

国立教育政策研究所が行った『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査』にも、先生方が“評価”に悩む姿が現れていました(P04,P08)。

そこで、本資料では、キャリア教育で進めるべき評価を、「見取り」と「点検」に分けて、それぞれ解説します。

本資料が、キャリア教育に取り組んできた先生方、取り組もうとしている先生方の役に立つよう願っています。



※キャリア教育とは……

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことを指します。(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))。子供たちが将来、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現するための力を身に付けさせるべく日々の教育活動を展開することこそがキャリア教育です。

したがって、教育活動内にある、児童生徒のキャリア発達を促すのに有効な諸要素—学習内容や指導方法、生活・学習習慣、体験的な活動—を意図的に相互につなげながら、学校の教育活動全体で進められるものです。

このパンフレットは、キャリア教育に関する全国調査の結果に基づいて作成されています。

調査名称:キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査

実施時期:平成24年10月~11月

調査方法:各都道府県、政令指定都市において所管する公立学校からの抽出

調査協力:学校(小1,995校、中500校、高993校)、学級・ホームルーム担任(小1,681名、中950名、高1,978名)、

児童生徒(小4,179名、中4,235名、高4,660名)、保護者(小4,008名、中3,931名、高4,259名)、卒業生(中1,503名、高1,169名)に御協力を頂きました。

※本調査結果の詳細については、以下の2冊の報告書を御参照ください。

第一次報告書:http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report.htm

第二次報告書:http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_2.htm

【このパンフレットの使い方】

必要なシーンに応じて、四つのパートを印刷し、研修等に御活用いただきたいと思います。

● 見取り については、P04—07で解説します。

見取りとは…評価の対象を児童生徒に絞り、先生方が子供たちの現状や学びの成果を把握することです。

● 点検 については、P08—11で解説します。

点検とは…評価の対象を学校全体に広げ、見取りの結果や全校的な教育活動の実施状況を把握することです。

● 見取りと点検の関係性 については、P12—13で解説します。

● 教育委員会 については、P14—15で解説します。

〈見取り・点検のパート事例の見方〉

ポイント

Point 2 児童生徒の実態を踏まえた評価規準・指標を設定する

2-1 2-2 具体的な見取りの項目を設定し、変容を見取る
～キャリア教育と教科や学校行事等との関連を明確にします～

中学校 ●例えば「教科(社会科 地理的分野)」では

→ 教科を通して身に付けさせたい力について指導計画内に具体的に表します。

キャリア教育の視点	能力の重点	社会科として身に付けさせたい能力・態度	学習指導要領との関連
夢を描く力 夢をかなえる力 (キャリアプランニング能力)	自分が果たすべき役割を理解し主体的に実行する。	・世界や身近な地域の地域的特色や地域の課題に対する関心を高め、それを意識的に追及し、捉えようとしている。	・世界の様々な地域の調査(1)工 ・身近な地域の調査(2)工

●例えば「職場体験活動」では

→ 事前・活動中・事後のねらいを明確にします。

ねらい【事前】

・職業講話、職業調べ、職場訪問等の学習をもとに、社会人としての生き方や考え方に興味をもち、職場体験での目標を決める。

ねらい【活動中】

・働く意義や生き方について、事業所の人の考えを聞き、自らの考えを深める。
・異なる意見や、考えから他者の良さや自分の良さを見つける。

ねらい【事後】

・職場体験活動の経験をもとに将来の進路に向けて主体的に学習を進めるとともに、自分の進路について考え選択できるようにする。

各ポイントの理解を深めるための情報や、更なる情報へアクセスするための手掛かりを掲載事例を通じて解説しています。

ポイントへのアプローチの仕方を説明しています。